

宇都宮賞に管内2人 加藤さん（帯広） 穀内さん（大樹） 酪農経営乳牛改良 後継育成や牛群成績向上に尽力

2021年1月18日

北海道酪農の振興や発展に貢献した人を表彰する「第53回宇都宮賞」に、十勝管内から帯広市の加藤賢一さん（69）＝十勝加藤牧場会長＝が酪農経営部門で、大樹町の穀内和夫さん（64）＝エンブレム－K社長＝が乳牛改良部門で、それぞれ選ばれた。3部門あるうち、2部門を十勝勢が占めた。2人は、牛群の成績向上の取り組みや、後継育成に尽力している点などが評価された。

公益財団法人「宇都宮仙太郎翁顕彰会」（本部札幌）が、道内の酪農関係機関や団体からの推薦を受けて、「酪農経営」「酪農指導」「乳牛改良」の3部門で表彰している。

加藤さんはJA帯広かわにしの推薦。1975年に就農、88年にはジャージー種8頭を導入した。ホルスタイン種と合わせた現在158頭の搾乳牛は、乳成分の高い検定成績を残している。帯広畜産大の研修協力牧場として後継者育成にも熱心で、日本ジャージー登録協会副会長を務めるなど、ジャージー牛関係の技術交流にも深く関わっている。

穀内さんはJA大樹町が推薦。76年に就農後、飼養管理のしやすい牛群づくりを目指し、牛群検定や牛群体形審査に積極的に取り組む。体形や能力のバランスの良さは北海道屈指と評価されており、長命・連産性に富む牛群をつくる。各共進会でも優秀な成績を残している。

十勝から1年に2人の受賞者が出たのは2014年以来2

回目の快挙。表彰式は3月1日に札幌市内のホテルで開かれる。

酪農指導の部には、札幌市の高橋芳幸さん（72）が選ばれた。



加藤 賢一 氏



穀内 和夫 氏

<宇都宮賞>

酪農の先駆者とも言われる宇都宮仙太郎の功績をたたえて、1968年に創設された。